

推進地域市区町村教育委員会名 : 南部町教育委員会
推進地域名 : 南部中学校区

1. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

住民一人一人が主体者として進められる人権尊重のまちづくりをめざして
～保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムを支える地域の基盤づくり～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本町は平成16年に旧会見町と旧西伯町の合併により誕生した人口11,200人あまりの町である。合併以来「人権が大黒柱のまちづくり」を町の重要な施策に位置付け、南部町人権会議を立ち上げて、部落差別をはじめあらゆる差別をなくす取組を展開してきた。町は町行政の全般にわたり町民の人権意識の高揚を図り、差別を許さない社会意識の形成や、人権擁護にかかわる社会的環境を醸成し、差別のない明るく住みよい南部町をめざしてきた。

しかし、平成23年度に実施した南部町の「同和地区実態調査」では、安定的な就労構造の形成、学力の格差解消という課題が浮き彫りになるとともに、被差別体験についてはこの10年間に同和地区住民の約3割が体験しているという実態が明らかになった。

また、本町は旧町時代の人権教育における取組の差から、旧町ごとに地域住民の人権に対する関心に温度差があり、「人権が大黒柱のまちづくり」を進めるためにも、地域住民全体の人権意識の高揚を図る必要がある。

一方、学校教育においては、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」において、人権教育の全体計画・年間指導計画の策定に当たっては、「全体計画については、例えば小学校では、体験・交流活動を通して、児童が自分で『ふれる』、『気付く』こと、中学校では他者に『気付く』ことを確かな認識に『深める』こと、(中略)発達段階に相応した目標を設定することが望ましい。また、年間指導計画の作成に当たっては、身近な人権問題を扱った学習や、例えば社会奉仕体験活動、自然体験活動などの体験活動、様々な人達との交流活動等を取り入れ、その計画を示すことが考えられる。」と述べているように、これまでの取組を踏まえ、地域課題や現代的課題にも目を向け、15年間を見通した一貫性のある効果的な人権教育プログラムの作成が課題となっている。

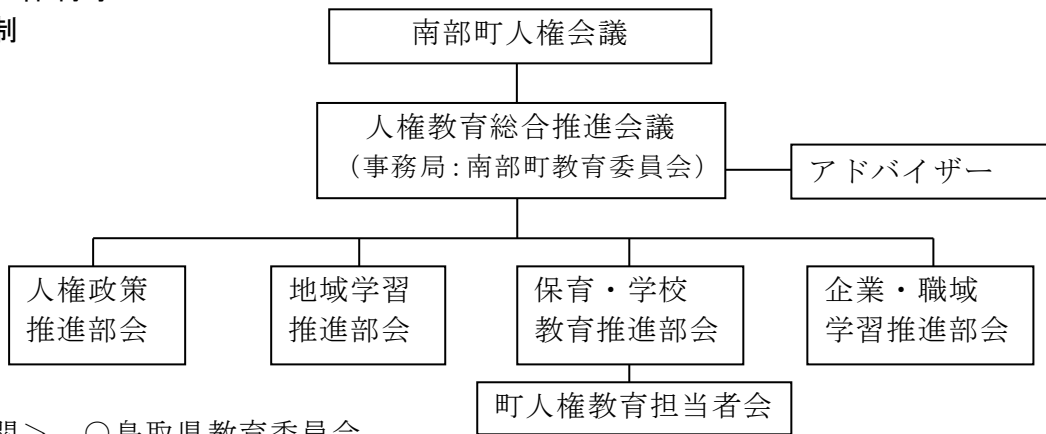
こうした状況を踏まえ、改めて同和教育を基軸とした人権教育のあるべき姿を調査研究し、今の時代に即した学びの環境を提供したいと考えた。

具体的には、学校教育においては、保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムの作成を行うこととした。

また、地域においては、人権会議の各部会の取組、または部会同士の連携を見直し、児童生徒に大人が学び続ける姿、大人として正しい行動をとる姿を見せていくことで、[第三次とりまとめ]で示している「学校での人権学習を肯定的に受容するような家庭や地域の基盤づくり」を推進していこうと考えた。

2. 調査研究の体制等

(1) 推進体制



<関係機関> ○鳥取県教育委員会

(2) 人権教育総合推進会議の構成

所属・役職、資格、経験等	氏名
人権政策推進部会 部会長 副町長(10月24日より町長)	陶山 清孝
地域学習推進部会 部会長 人権学習推進委員会代表	長谷川 忠実
保育・学校教育推進部会 部会長 教育長	永江 多輝夫
企業・職域学習推進部会 部会長 西部森林組合長	生田 公良
人権会議 事務局長 教育委員会事務局教育次長	板持 照明

(3) 推進協力校の概要

学校名	学級数	児童生徒数
南部町立会見小学校	11学級 (うち特別支援学級2学級)	全児童数: 185人 (平成29年1月31日現在)
南部町立会見第二小学校	4学級	全児童数: 10人 (平成29年1月31日現在)
南部町立南部中学校	7学級 (うち特別支援学級2学級)	全生徒数: 105人 (平成29年1月31日現在)

3. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

i) 各部会の取組

①保育・学校教育推進部会

毎月開催している人権教育担当者会をプログラム検討委員会と位置づけて、保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムの作成に向けた取組を中心に行った。中学3年生時点でのめざす姿を明確にし、それに向けて人権教育を通して0歳から15歳までどのような資質・能力を育てていけばよいのかという検討を行った。

②人権政策推進部会

保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムを支える地域の基盤づくりという視点に立ち、人権政策の立案並びに要請活動及び施策等の推進を図った。具体的には「差別事象対応マニュアル」の改訂と「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす基本(実施)計画」の策定に取組んだ。また、男女共同参画の啓発推進に向けて「よつ葉の会(南部町男女共同参画推進会議)」を中心に啓発推進の取組を行った。

③地域学習推進部会

保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムを支える地域の基盤づくりという視点に立ち、地域における学習活動及び、各種住民啓発事業の推進を図る取組を行った。具体的には地域学習推進員を中心に地域振興区別での人権懇談会や研修会を実施するとともに、地域住民を対象とした人権学習会やいきいきサロン(高齢

者学級)などを開催した。

④企業・職域学習推進部会

保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムを支える地域の基盤づくりという視点に立ち、町内の企業研修の促進と町の人権研修会への参加促進を図った。

ii) 先進地視察

全国規模の研修会や研究大会に教職員、行政職員等を中心に派遣をし、国のめざす方向性を確認するだけでなく、先進的な取組事例を持ちかえり研究推進の参考とした。

iii) 部会以外の取組

- ・年6回の住民対象人権講座「ミカエル・セミナー」の開催
- ・住民対象の人権啓発のつどい(コンサート)の開催
- ・広報誌「広報なんぶ」、CATVによる広報活動
- ・人権スタンプラリー(年間5回以上の参加で表彰)の実施
- ・南部町人権・同和教育研究大会の開催

時 期	内 容	備 考
4月3日	西公民館いきいきサロン(地域学習)	参加者14人
4月14日	第1回町人権教育担当者会(保育・学校教育)	参加者9人
4月14日	第1回よつ葉の会定例会(人権政策)	参加者7人
4月18日	人権教育総合推進地域事業連絡協議会(県教委2人)	参加者9人
4月21日	第1回人権教育総合推進会議(事業計画の確認)	参加者19人
4月25日	南部町人権会議総会	参加者74人
4月27日	大国人権学習推進委員会(地域学習)	参加者10人
5月9日	人権啓発推進委員の会	参加者12人
5月19日	第2回よつ葉の会定例会(人権政策)	参加者4人
5月23日	手間山人権学習推進委員会(地域学習)	参加者14人
5月24日	第2回町人権教育担当者会(保育・学校教育)	参加者16人
5月26日	第1回ミカエル・セミナー(参加型学習)	参加者69人
5月31日	人権啓発推進委員の会	参加者10人
6月1日	第2回人権教育総合推進会議(事業の進捗確認)	参加者9人
6月9・10日	第41回部落解放・人権西日本夏期講座(高知市)	参加者5人
6月16日	南さいはく人権学習推進委員会(地域学習)	参加者5人
6月20日	富有の里人権学習推進委員会(地域学習)	参加者7人
6月23日	第3回町人権教育担当者会(保育・学校教育)	参加者16人
6月27日	地域学習推進部会・班長会(地域学習)	参加者12人
6月30日	第3回よつ葉の会定例会(人権政策)	参加者7人
7月4日	南さいはく人権学習推進委員会(地域学習)	参加者5人
7月13日	第2回ミカエル・セミナー(同和問題・福永宅司氏)	参加者112人
7月14日	第4回よつ葉の会定例会(人権政策)	参加者7人
7月14日	南部中学校区児童・生徒・保護者合同人権学習会 (保育・学校教育、県教委1人)	参加者211人
7月19日	人権政策推進部会(人権政策)	参加者11人
7月20日	大国人権学習推進委員会(地域学習)	参加者6人
7月21日	富有の里人権学習推進委員会(地域学習)	参加者8人
7月21日	第4回町人権教育担当者会(保育・学校教育)	参加者20人
7月27日	西町の里人権研修(地域学習)	参加者14人
8月3日	保育・学校教育推進部会(保育・学校教育)	参加者11人
8月5日	企業・職域学習推進部会(企業・職域学習)	参加者4人
8月9日	人権学習研修バスツアー(鳥取市)	参加者14人
8月12日	南部町進学奨励金奨学生前期研修会(人権政策)	参加者24人
8月19日	人権啓発のつどい(堀内佳氏コンサート)	参加者62人
8月29日	天津人権学習の会(地域学習)	参加者11人
8月30日	第5回町人権教育担当者会(保育・学校教育)	参加者15人
9月1日	第3回人権教育総合推進会議(兼研究集会実行委員会)	参加者12人
9月5日	手間山地域懇談会(地域学習)	参加者17人
9月8日	第5回よつ葉の会定例会(人権政策)	参加者6人
9月15日	よつ葉の会・DVD確認(人権政策)	参加者3人

9月16日	寺内いきいきサロン（地域学習）	参加者 14人
9月26日	人権啓発推進委員の会	参加者 10人
9月27日	第3回ミカエル・セミナー（障がい者の人権・竹内昌彦氏）	参加者 66人
9月29日	富有の里人権学習推進委員会（地域学習）	参加者 8人
9月29日	第6回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 16人
10月12日	大国人権学習推進委員会（地域学習）	参加者 7人
10月15日	清水川集落人権学習会（地域学習）	参加者 18人
10月18日	天津人権学習の会（地域学習）	参加者 9人
10月18~20日	部落解放研究第50回全国集会（奈良市）	参加者 5人
10月19日	第6回よつ葉の会定例会（人権政策）	参加者 6人
10月22~23日	熱と光の解放文化祭（地域学習、保育・学校教育、県教委1人）	参加者 352人
10月27日	第7回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 16人
10月30日	高姫公民館人権学習会（地域学習）	参加者 30人
10月31日	第4回人権教育総合推進会議（兼研究集会実行委員会）	参加者 11人
11月3日	南部町教育の集い（県教委2人）	参加者 84人
11月6日	天津地区文化祭・人権学習会（地域学習）	参加者 75人
11月9日	大国人権学習推進委員会（地域学習）	参加者 8人
11月10日	第7回よつ葉の会定例会（人権政策）	参加者 7人
11月15日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委1人）	参加者 4人
11月22日	第8回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 16人
11月26日	大国地区合同いきいきサロン（地域学習）	参加者 68人
11月26~27日	第68回全国人権・同和教育研究大会（大阪市）	参加者 5人
11月29日	第4回ミカエル・セミナー（性的マイノリティ・虹色らくだ）	参加者 52人
11月30日	手間山人権映画会・懇談会（地域学習）	参加者 23人
12月4日	第8回よつ葉の会定例会・町外研修（人権政策）	参加者 5人
12月9日	東西町人権バスツアー（渋染一揆資料館）	参加者 23人
12月13日	第9回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 16人
12月14日	地域学習推進部会（地域学習）	参加者 10人
12月27日	南部町進学奨励金奨学生後期研修会（人権政策）	参加者 23人
1月13日	第5回人権教育総合推進会議（兼研究集会実行委員会）	参加者 13人
1月16日	天津人権学習の会（地域学習）	参加者 6人
1月17日	保育・学校教育推進部会（保育・学校教育）	参加者 11人
1月19日	第9回よつ葉の会定例会（人権政策）	参加者 7人
1月24日	第5回ミカエル・セミナー（個人情報・下吉真二氏）	大雪のため中止
1月26日	浅井公民館人権研修（地域学習）	参加者 25人
1月31日	第10回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 14人
2月2・3日	第31回人権啓発研究集会（名古屋市）	参加者 5人
2月3日	驛牛集落人権研修（地域学習）	参加者 8人
2月4日	第5回南部町人権・同和教育研究集会（県教委1人）	参加者 134人
2月5日	法勝寺地区人権映画会（地域学習）	参加者 20人
2月8日	宮前1区いきいきサロン映画会（地域学習）	参加者 21人
2月13日	東西町人権学習推進委員会（地域学習）	参加者 4人
2月16日	第10回よつ葉の会定例会（人権政策）	参加者 6人
2月20日	第6回人権教育総合推進会議（兼研究集会実行委員会）	参加者 10人
2月21日	八金集落いきいきサロン（地域学習）	参加者 15人
2月23日	第11回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 13人
2月25・26日	第39回全国人権保育研究集会（京都府宇治市）	参加者 3人
3月1日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委10人）	参加者 28人
3月3日	第6回ミカエル・セミナー（犯罪被害者等の人権）	70名参加
3月9日	第11回よつ葉の会定例会（人権政策）	7名参加

（2）調査研究の成果と課題

【成果】

○人権教育を通してこれからの南部町の子どもたちに身につけさせたい力をじっくりと考えることができた。

昨年度までの人権教育担当者会においても保・小・中の連携は常に課題として上がっており、何度か年間指導計画等を見比べたりする機会があったもの、担当者が代わる度に振り出しに戻る状況があった。本事業を受け、会の開催時間もこれまでの1時間から1時間30分に伸ばしたことにより、人権教育を通して育てたい力について保・小・中の現状を踏まえた上でじっくりと考えることができた。15回に及ぶ修正・変更を経て、育てたい力（資質・能力）を南部町オリジナル学習である「まち未来科」

とリンクさせて一つのシートにまとめることができたことは大きな成果である。

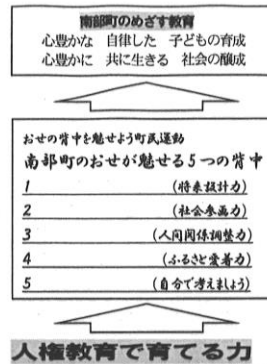
○南部町人権教育のめざす方向が定まり、人権教育担当者会の質が高まった。

研究を進める中で15年プログラムが単に15年間で育てたい力をまとめた保育・学校教育サイドだけのものではなく、以下4点の要素を加えることで地域全体のプログラムになり得る可能性を見つけることができた。

- ①発達段階ごとにおけるソーシャルスキルトレーニングの導入
 - ②同和問題に関する学習の積み上げ
 - ③地域住民（保護者）の学びとの連携
 - ④南部町の大人の正しい姿を示す（「おせの背中を魅せよう」町民運動とのつながり）
- また、それらを議論する中で、これまでどちらかという連絡会的要素の強かった人権教育担当者会の場合自身が学びの場となり、人権担当保育士及び人権教育主任のスキルアップにもつながった。

<15年プログラム>

※表中ア～セは関連する資質・能力（人権教育の推進に関連する取組状況調査参照）



	将来設計力 (自己実現) 〈キーワード〉 志・自立心・我慢 正義感・克己心 なりたいたい人のイメージ	社会参画力 (社会の一員としての役割) 〈キーワード〉 あいさつ ルール 人を幸せにする力	人間関係構築力 (共に生きる) 〈キーワード〉 伝える・関わる 共感・言える勇氣 聞く・よいとご見つけ	ふるさと愛着力 〈キーワード〉 地域行事 参加 体験	ソーシャルスキル トレーニング	共通課題事項 (同和問題等に向け)	地域との関わり (保護者)
	自分のことを友だちに語るができる						
中学校	④ありのままの自分を受容し、目標となる大人像に気づき、自分の将来を思いえがくことができる。【オ】 ⑥間違いに気づき、自らの言動を正したり、友だちや家族に指摘したりすることができる。【シ・エ・セ】	④差別や不合理の解決に向けて、自ら行動しようとする。【ス】 ⑥自らが正しい行動をとることで、人を幸せにできることを知っている。【ア・イ・ウ】	④お互いを大切にしたい聞き方、話し方での話し合いができる。【カ・ク】 ⑥人には様々な考え方や感じ方があることを認め合い尊重しようとする。【キ】	④自分のことと地域の未来を語るができる。 ⑥ボランティア活動に参加する。			
高学年	④自分の個性に気づき、夢を持つことができる。【オ】 ⑥正しいことをみんなで確認し、やり抜こうとする。【シ・エ・セ】	④すべての人が基本的人権を持っていることと、身の回りに潜む人権問題に気づくことができる。【ス】 ⑥問題解決に向けて協力して行動しようとする。【ア・イ・ウ】	④相手の立場を理解した聞き方、話し方ができる。【カ・ク】 ⑥自分と相手のちがいを認め、受け入れることができる。【キ】	④地域の歴史や特色を知る。 ⑥課題意識をもって地域と関わるができる。			
中学年	④目上の人を敬う言動をとおして、礼儀作法を身につける。【オ・キ】 ⑥善悪の判断ができる。【イ・セ】	④困った時に相談する人や場所を知っている。【シ】 ⑥困ったこと、嫌なことに出会ったとき、自分の思いを伝えることができる。【ア・イ・ウ】	④自分の思いを伝え、相手の思いを正しく聞き取ることができる。【カ・ク】 ⑥人には様々な考え方や感じ方があることを知る。【キ】	④地域の人と関わりを持って地域を知ろうとする。 ⑥地域の人・もの・ことに自分から関わろうとする。			
低学年	④友だち、家族を大切に、感謝の気持ちを持つことができる。【オ・キ】 ⑥学校、学級のきまりとその意味がわかり、守ることができる。【イ・セ】	④身のまわりのきまりと理由を知っている。【イ】 ⑥困ったこと、嫌なことに気づく。【ア・イ・ウ】	④自分からあいさつしたり、話し掛けたりすることができる。【カ】 ⑥自分のことを大切だと感じられる。【オ】	④地域の行事に進んで参加する。 ⑥地域の人と楽しくふれあうことができる。			
以上児	お互いを認め合う仲間 ・共通の目標に向かって活動する中で、多様な存在を認め合う。 ・相手の気持ちを大切に、自分の気持ちを伝えることができる。	相手の思いへの気づき ・様々な人と関わり遊ぶ中で、ルールを守りつながら関わりを深める。	仲間意識の芽生え ・簡単なルールを守りながら友だちや異年齢児と関わることを楽しむ。	地域との関わり ・地域の人・もの・ことに関わる。 ・地域の自然物や事柄を遊遊に取り入れる。			
未満児	安心・安定した心地よい生活 ・安心して過ごし、愛されている実感を持つ。	友達と遊ぶ楽しさ ・友だちを意識し、簡単な言葉のやりとりを通してみんなで遊ぶ楽しさを感じることができる。	友達への存在への気づき ・友だちの存在に気づき、自分の思いを言葉や動作で伝えることができる。	地域とのふれあい ・地域の人や自然とのふれあいを楽しむ。 ・身近な大人と一緒に地域の人や自然とふれあう。			

行動化

知識

人権感覚

○一人でも多くの人に、一つでも新しい気づきを届けることができた。

人権をより身近なものに感じてもらえるよう「気づく・知る・感じる人権のつどい」という名称で年6回開催していた全町民対象の人権セミナーを南部町の人権キャラクター「ミカエル」にちなんで「ミカエル・セミナー」に名称変更した。さらに、一人でも多くの町民の方に参加していただけるよう、講演だけではなく一人芝居等のスタイルも取り入れた。第2回のミカエル・セミナーでは福永宅司さんをお招きし、一人芝居を通して同和問題について学んだ。

第2回「ミカエル・セミナー」(結果)

『テーマ』 同和問題

『内容』 福永宅司氏一人芝居「HIKARI '16」

【日時】 平成28年7月13日(水) 19:30~21:10

【会場】 富有まんてんホール(南部町天萬)

【参加者数】 112名

*****アンケート用紙の集計*****

【アンケート回収】 84名

【記入者の年代と性別】

年齢 性別	20歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無記入	計
男性	0	1	2	8	7	14	3	1	0	36
女性	1	1	6	16	17	4	2	0	1	48
計	1	2	8	24	24	18	5	1	1	84

とても良かった・5 / 良かった・74 / まあまあ・3 / よくなかった・1 / 不明・1

○地域学習推進委員の自主的活動が活発になり、学習形態や啓発方法も工夫され始めた。

どの地区も熱心に取り組んでおられるが、「行動化・見える化」を一つのキーワードに取り組を進めた結果、高齢者の振込詐欺防止をテーマにした寸劇で、個人情報保護を啓発する地区も出てきた。人権をより親しみやすくというねらいだけでなく、南部町が進める戸籍等の個人情報の不正取得を抑止するための「本人通知制度」への登録促進につなげるねらいもあり、学びの工夫、活動の広がりが見て取れる。

「本人通知制度」登録者数の推移

	24年 8月	24年 12月	25年 8月	25年 12月	26年 8月	26年 12月	27年 8月	27年 12月	28年 3月	29年 1月
登録者数 (人)	13	36	64	100	109	116	199	227	239	267

【課題】

●地区進出学習会の理解を踏まえた同和問題の学び方が明確でない。

次年度は法勝寺中学校区も加えた形で研究を進めていきたい。両校区とも同和地区を有しており地区進出学習会にも取り組んでいるが、その理解や取り組み方には違いがある。地域性もあり全く同じにする必要はないが、同和問題の本質を一度捉え直し、子どもたちの豊かな未来に即した学習会の捉え方、同和問題の学び方の方向を示していきたい。

●町内の全保育士、教職員でプログラムを作成しているという気運を高める。

今年度は保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムの作成に関して人権教育担当者会を中心に取り組み、随時会の内容を各園、学校で共有するよう努めたが、その徹底を図ることができなかった。人権教育総合推進会議の再構成も図り、まずは町内の全保育士、全教職員の本事業に対する関心を高めていきたい。

●調査研究の現状を地域(家庭)に伝えきれておらず、地域住民(保護者)のプログラムへの関わり方が明確でない。

保・小・中15年間を見通した人権教育プログラムが園、学校だけのものではなく、南部町全体のプログラムとなるよう、保護者を含めた地域住民にどのように伝え、どのように活用してもらおうのか研究を進めていきたい。